

報告書名：歯科医師を対象とした歯と全身の健康、栄養との関連に関する研究

研究者名：若井建志¹⁾、梅村長生²⁾、小島正彰³⁾、川村 孝⁴⁾、中垣晴男⁵⁾、横田 誠⁶⁾、
内藤 徹⁷⁾、内藤真理子⁸⁾

所 属：¹⁾愛知県がんセンター研究所疫学・予防部、²⁾愛知三の丸病院歯科口腔外科、³⁾愛知県
歯科医師会調査室、⁴⁾京都大学保健管理センター、⁵⁾愛知学院大学歯学部口腔衛生学、
⁶⁾九州歯科大学歯学部歯科保存学第二、⁷⁾福岡歯科大学総合歯科学、⁸⁾名古屋大学大学
院医学系研究科予防医学 / 医学推計・判断学

【目的】 歯の健康が全身の健康につながるとする「8020運動」のテーゼを証明するためには、横断研究では不十分であり、口腔状態が良好な者において、実際に死亡率や疾病罹患率が低いかどうかを大規模なコホート研究で検討する必要がある。しかし地域住民の場合、口腔状態のデータ収集には歯科検診が必要で多額の費用を要する。そこで自記式調査票によってもかなり正確な口腔状態の情報が得られる歯科医師を対象としたコホート研究を計画した。

【方法】 研究対象者は日本歯科医師会の会員である。ベースライン調査は自記式調査票により実施した。収集する情報は、性・年齢、既往歴・家族歴、口腔衛生習慣および口腔状況（喪失歯数、歯周の状態など）、生活習慣（とくに食習慣）、心理要因などである。研究参加者の追跡には、あらかじめ同意を得た上で、各県歯科医師会が共済事業などで把握した疾病罹患・死亡情報（診断書、死亡診断書など）を利用する。最終的にはベースライン時点での口腔状態と、疾患罹患・死亡との関連を、コホート研究の解析方法により分析する予定である。今回はベースライン調査データを用い、研究参加者の口腔状況とその関連要因、および喪失歯数群別の推定栄養素摂取量平均値（食物摂取頻度調査票による）を検討した。

【結果および考察】 2005年4月1日現在、43都道府県の歯科医師会でベースライン調査を実施済または実施中であり、これまでに約21,800名が研究に参加している。また一部の県歯科医師会では、疾病罹患・死亡状況の追跡調査も開始している。今回はデータ入力が終了した、24県の県歯科医師会におけるベースライン調査データを分析した。分析対象者は12,472人である（平均年齢±標準偏差 51.8±12.1歳、女性887人、有効回答率44.7%）。

平均喪失歯数（智歯除く）は、男性では40-44歳で1.1本、50-54歳で2.2本、60-64歳で4.3本、70-74歳で11.7本、女性では40-44歳で1.3本、50-54歳で1.9本、60-64歳で5.9本、70-74歳で10.8本であり、一般住民との比較（平成11年歯科疾患実態調査）では、ほぼ全年齢層で歯科医師集団の方が少なかった。歯周病（歯石沈着または4mm以上の歯周ポケット）を持つ者の割合も、男女とも全ての年齢層で一般住民より低かった。

歯周病と統計学的に有意に関連、またはその傾向(p<0.10)を示した要因は、喫煙、低いブラッシングおよび歯間清掃用具使用頻度、低い精神的健康度（General Health Questionnaireによる）、激しい運動をしないであり、歯牙喪失（5本以上）と関連する要因は、喫煙、投薬を伴う糖尿病、低い歯間清掃用具および歯石除去頻度、高い収縮期血圧、低い精神的健康度、激しい運動をしないであった。

また喪失歯数が多い群ほど、蛋白質、脂質、カルシウム、鉄、カリウム、カロテン、ビタミンA・CおよびE、食物繊維の推定摂取量は少なかった。逆に炭水化物については、喪失歯数が多い群ほど摂取量が多い傾向が認められた。

【今後の展望】 平成17年度にはベースライン調査とその集計を終了し、今後は長期の追跡調査を実施する予定である。成果は日本の歯科医師発のエビデンスとして国内外へ発信し、8020運動の推進にいろいろ寄与したいと考えている。